

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870200767
法人名	特定非営利活動法人 臯月
事業所名	グループホーム さつき
所在地	愛媛県今治市泉川町1丁目1-29
自己評価作成日	平成28年8月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>●ご利用者が安心して、安全に生活できていること。また、その為に職員同士が連携し、情報を共有しながら日々支援を行うよう心掛けている点。 ●レクリエーションが充実していること。 ●季節ごとにイベント(餅つきやお花見会等)をご家族と共に行っていること。 ●ご利用者に出来るだけ寄り添うよう心掛けていること。また、身体機能向上に努めていること。 ●ご利用者に適した個別ケアを大切にしていること。 ●安心して、ゆったりと生活ができ、ご利用者中心とした思いやりや寄り添うケアを心掛けている点。 ●ご利用者の思いを引き出し理解できるように、職員が日々努力していること。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●玄関周りや庭、室内の各所に緑や花を配している。又、木の温かみのある家具等を配置し、家庭的で開放感のある空間を作っている。又、照明も明るすぎないように配慮し、窓からの自然の明るさを採り入れている。玄関を入ったスペースには、職員の家族が作った作品や以前利用していた方の写真を飾っていた。</p> <p>●職員がゆとりを持つことはケアの質に関わることを考え、2人夜勤、早朝の補助職員の配置等、人員を手厚くする体制を作っている。又、日勤、夜勤等それぞれに役割を持つ仕組みを作っている。台所では食器の置き方、トイレや脱衣所、洗面所の収納等のルールをつくり、誰もが同じことができるような仕組みを作ることで業務の合理化を図っている。合理化したことで午後から45分間、利用者と職員で歌を歌ったり体操したり、ゲームをして過ごす時間を確保している。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容を P R!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名

グループホームさつき

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

青野 勇

評価完了日

平成 28 年 8 月 1 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人及び事業所の基本理念として「支えあい・助け合い」を掲げており、利用者に家庭的な雰囲気の中で穏やかな暮らしと自分らしい生活が守れるようホームの理念を作り上げ、地域の高齢者やそのご家族の助けになるようなホーム作りを目指している。 なお、職員には理念が出来た背景を話し、その目的を共有できる様に取り組み、また、毎日居間の壁に掲げている理念を復唱することで理念の浸透を図っている。	
			(外部評価) 理念を居間等に掲示して職員で共有している。代表者や管理者はケアにかかわりながら、理念を実践につなげられるように話をしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 設立10年以上が経ち、日々職員とご利用者が一緒に散歩しているが、その時などに交わす、地域の人達との会話や挨拶の中でも着実に地域に溶け込んでいると実感を持っている。また、運営推進会議やホーム主催の餅つき大会等でも、ご近所の方にお声掛けするなどし、交流を深めている。	
			(外部評価) 散歩にほぼ毎日出ており、近所の方と顔を合わせることも多い。調査訪問時には、地元の方が入居相談に来ていた。 運営推進会議参加やボランティア、災害時の連携等、事業所への理解・協力者をさらに増やせるような働きかけを工夫してほしい。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 自治会の集まり等にも参加し、地域の人達と話す機会を多く持ち、私たちの専門性を活かした分野で相談を受ける等しながら、お役立てできる様心がけている。また、運営推進会議のテーマとして認知症について取り上げ、ご家族及び地域の方々へ認知症に対する理解を深めることに尽力している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、入居者の状況、さつきの理念や日常の健康管理、外部評価結果とその改善計画等について議題に取り上げ、その都度ご意見をくみ上げながらサービスの向上に繋げている。</p> <p>(外部評価) 会議には、家族の参加が多く、地域からは自治会長兼見守り推進員の方が参加している。会議では、スライドを使って行事や外出、又、日常の暮らしの様子をみてもらい、より具体的に事業所の様子を知ってもらえるように工夫している。毎回議題を決めて報告等しており、参加者の認知症の理解に取り組んでいる。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の担当課には、我々はNPO法人の精神で事業を進めており、お役に立てることがあれば積極的に社会貢献活動をしていきたい、と言った考えを伝えている。また、市の生活支援課(担当者)の方と密に連携をとりながら、サービスの向上及び支援に努めている。</p> <p>(外部評価) 2ヶ月毎に行う今治市のグループホーム連絡会に参加して、同業者と救急救命や災害について勉強したり、困難事例や現状についての意見交換を行っている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員会等の身体拘束について機会ある毎にその問題について話し合い、意識を高めており、その人らしさを奪う行為は、ホームの理念に反する事としてして厳しく捉え、職員採用時はもとより、折に触れ指導している。また、転倒の危険性が高いご利用者へのベッド柵の使用等についても、その設置位置や使用方法について、どの様にすれば拘束にならず且つ危険が最小限に抑えられるか考えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員会時に勉強したり、代表者や管理者が日々のケアの中で気になるような場面があればその場で理由を聞き、話し合うようにしている。足元が不安定な利用者にはベッドの足元にセンサーマットを敷き、職員が駆けつけて対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新規採用時には、虐待の具体的内容を挙げ、「虐待は許さない」というホームの基本的姿勢を明確にしている。また、虐待が見過ごされることがないように注意を払いながら、問題意識の徹底を図っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は民生委員や近隣地域の見守り推進委員の方達とも連絡を取り、積極的に取り組んでいる。また、ご利用者のご家族と成年後見制度の利用について話し合い、話が進行しているところである。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時は段階を踏みながらホームの現状等の説明を行い、重要事項等の説明を丁寧に行っている。また、利用者やご家族が質問や疑問に感じる点は遠慮なく言っただく様 常に申し上げており、十分に納得が得られるように図っている。利用料改正にあたっては、1年以上かけてご利用者ご家族への説明を行った後に改正する等十分な時間を設けている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者やご家族には、来訪された折や家族会議等で各ご利用者の諸状況を個別に説明し、その際、意見や苦情等があれば職員や管理者に訴えやすい環境と機会を設け、それを運営に活かせるようにしている。なお、第三者の立場で相談できる人を立て、言いにくい事があれば相談出来る様にもしている。 (外部評価) 家族から「新しい職員さんですか」と職員について質問があったことを機に、運営推進会議時に職員紹介を行っている。4月の花見、9月のいもたきと併せて家族会を行っており、家族と利用者、家族同士の交流の機会となっている。家族が参加しやすいように日曜日に開催にしている。毎月、家族への送付書類に手紙を同封して、金銭管理や利用者の健康状態や設備改修等についての報告を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>職員会議や勉強会には必ず、管理者・代表者が出ており、その際に積極的な意見交換を行っている。また、常日頃から職員が意見を出しやすい職場環境作りを心がけており、書面や口頭により、その都度運営者の方から各人の意見を聴くようにもしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員がゆとりを持つことはケアの質に関わることで考え、2人夜勤、早朝の補助職員の配置等、人員を手厚くする体制を作っている。又、日勤、夜勤等それぞれに役割を持つ仕組みを作っている。台所では食器の置き方、トイレや脱衣所、洗面所の収納等のルールをつくり、誰もが同じことができるような仕組みを作ることによって業務の合理化を図っている。合理化したことで午後から45分間、利用者と職員で歌を歌ったり体操したり、ゲームをして過ごす時間を確保している。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所では、早出や食事係のアルバイトを置くなど、ゆとりのある介護を目指した事業運営をしている。また、二人夜勤制の導入、休日希望制を取り入れる等、働く職場環境の充実に力を入れている。更に、職員にも事業経営をオープンにし、広い視野で事業を取らえられるように図っている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>代表者・管理者は、適切に職員個々人の力量やケアに対する考え方等を把握している。また、積極的に全職員が外部研修を受ける機会を推進しており、その研修内容を職員会等で発表することで、未受講者への浸透を図っている。なお、要望があれば資格取得に関する経済的な支援もしている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営者が今治市グループホーム交流会の役員をしており、同業グループとの連携が取れるようにネットワークを構築している。また、市内の他事業所を訪問する機会を設け、その差異を感じることで刺激を受けつつサービスの質の向上に活かしている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入居前にはご本人と何度も会う機会を設け、これまでの暮らしについて時間をかけて話を伺い、聴きだせるように努めている。また、事情によって体験入所を勧めるなど、本人の要望や不安等について傾聴しながら向き合っている。入所時には、管理者が毎日様子を伺い、安心した暮らしが出来る様に支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談を受けた時から入居されるまで、どのような点に困っておられ、どういった点を求めているか、何度か面会の機会を設ける等して十分に何う様に努めている。ご家族からの不安や相談には誠意を持って応えていく事が事業所の運営方針でもある。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に事情を伺う中で、必要に応じて連携施設や他の事業所、施設等の支援制度(介護保険)について説明し、助言している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ラジオ体操やりハビリ体操、唄、レクリエーションを毎日職員と一緒にしており、そうした共同生活の中で支えあう関係を築くことが出来ていると思う。また、関心のある方には、庭の手入れや洗濯物干し等の家事も一緒に行っていたいしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族様に、電話やお便り等で利用者ご本人の日頃の様子が常に届くよう情報を入れている。また、病院の定期受診等は基本にご家族介助のもと通院していただくようお願いしており、その際にもお互いの情報を共有するよう努めている。また、家族会、誕生会やお花見会、餅つき等の季節の行事にはご家族に参加を積極的に呼びかけ、皆で楽しめる機会を設けている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みにしてきた美容院への送迎支援や、活け花・趣味の展示会等にも行っている。また、年に数度のお墓参りを希望する方へ対応したり、入居前にご近所で交流のあった方やご利用者の兄弟姉妹等との面会支援もおこなっている。 (外部評価) 家族支援が難しい利用者から墓参りの希望があれば、管理者が支援している。電話したい希望があれば、職員が仲介して支援している。写真入りの年賀状をつくり、自分で名前を書いて出せるよう支援しているケースがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 基本的に居間で過ごされることの多いご利用者であるため、互いの関係に配慮して座席を決めており、状況の変化に応じて配席も見直している。口喧嘩や不平が聞こえたらさりげなく間に入ったりお話を伺いよう努めており、相互関係を大切にすることで支えあえる関係が築いていけるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 一度ホームに入居された方とのご縁を大切にしており、退居後も機会を捉え、入院先に訪ねたりその後の様子をご家族に伺ったり、ご相談にものらせて頂いてきた。また、退去後も年賀状のやり取りが続いている方もおいでる。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員会議等において、毎月各ご利用者の経過記録《まとめ》を発表し、カンファレンスを行っている。そのような中で、出来るだけ本人の希望や思い、また、望ましいライフスタイルの在り方を掴み、暮らしに活かせるよう心がけている。また、ご家族が来られた際に要望を言われていないか等伺うようにしている。 (外部評価) 年2回の家族会の機会を捉え、ケアプラン資料3を用いて、食事、排泄、入浴、外出、健康等についての現状や知り得た情報をまとめ、家族に報告している。又、家族からの情報を追加している。日々職員でミーティングする時間をつくり、気付き等を共有しながらケアを実践できるような仕組みを作っている。	さらに、ケアプラン資料3に「ライフスタイル」として暮らし方の希望を記入する欄を設けたが、情報量が少なになっている。情報を蓄積して、利用者が暮らしに何を求めているかを探り支援につなげてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にアセスメントを行う事や、場合によっては、これまで生活されていたご近所の方にも生活状況をお聴きする等、情報把握に努め、利用者が安心して暮らせる生活環境作りに役立てている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りや日々の記録から、利用者の心身状態が把握できるようチェック機能を構築している。特に健康状態の変化や退院後の心身状態には気を配っており、現状を把握した上で低下したADL向上に努めている。また、職員会や勉強会等でもその人に合った過ごし方が出来る様に話し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>担当者を決め、経過記録をつけながらモニタリングを行っている。本人やご家族からは、家族会や面会に来られた折等にご意見やご要望をお聴きしながら、職員会や勉強会等でカンファレンスをおこなっている。また、個人記録上でもケアポイントといった項目を取り入れる等の仕組みを構築し、介護計画が日常生活に活かしやすいよう、また、現状に合った介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族には見直し前にケアへの要望を聞き取っている。介護計画は家族に送付してじっくり確認してもらい、来訪時にさらに説明してサインをもらう仕組みを作っている。介護記録の上部に計画の重点項目を記入しており、毎日 × 等でモニタリングを行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個人記録の中にケアプランの短期目標やケアの有り方をわかりやすくまとめて記載しており、日々のケアに活かされているかチェックするようになっている。また、日報、夜勤報の申し送りの徹底しており、職員が情報を共有出来る様にしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一緒にお墓参りに行ったり、馴染みの理美容院の送迎や医療機関への受診援助、友人や親戚宅等への訪問援助や、希望により自宅への一時帰宅の支援など、出来る事は柔軟に支援している。また、外部ボランティアの活動を受け入れる等もしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>機会を捉えて普通救命救急講習（蘇生法、AED講習）を受けたり、ボランティアによる演目披露や地域で開催する文化祭や展示会には良く出かけている。また、市民の森やグリーンピア等の施設を利用し、自然との触れ合いを大切にしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人やご家族には、入居時に医療を受ける際の希望をお 聴きし、要望に沿って対応している。また、身体状態の異 変や異常には早期発見・受診を心がけており、昨年より契 約した訪問看護ステーションの定期訪問が入ることで、 ナースとかかりつけ医師との連携もよりスムーズに行われ ている。また、その後の症状によって医療機関を家族と相 談しながら選んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>軽いカップを使い、150ccの位置にテープを貼り、利用者 がどのくらい水分摂取できたか把握している。訪問看護が 週1回来て利用者の健康管理をしており、職員からの相談 に乗ったり、必要時には対応している。医療連携体制によ り、医療処置をしている方の受け入れができるようになった。</p>	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>日常生活において、利用者の細かな異常や異変に気付く、 報告すると言った体制を重視しており、昨年より契約した 訪問介護ステーションの訪問看護師等へ日々の気づきや気 になることをお伝えしている。受診については、毎日の様 子を観察している責任者が、かかりつけ医や訪問看護師、 ご家族と相談しながら対応している。</p>	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入退院時には、基本的に管理者自らが責任を持って病院関 係者及びご家族等との連絡を密に取り合い、情報交換や相 談に努めている。また、関係医療機関の関係者とも日頃か ら連絡を取り合っている。</p>	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>重度化や終末期の問題は、以前から常々家族会等でも話し 合う機会を持っており、入院時や体調急変時には、個別に ご家族と意見交換・相談をさせていただいている。連携医 療機関やかかりつけ医との問題も事前に話し合っており、 重度化した際の希望もご家族等よりアンケートを取ってい る。事業所として、出来る事や出来ない事を明確にしまし ながら取り組む姿勢を示している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時や家族会時には、今治市の在宅医療の実情 を話して、事業所での支援について説明を行っている。家 族は「できる限りホームで」と希望する方が多い。職員の 支援への意識付けのため「ホームで看取り支援するとした らどうか」と問いかけ、考えてみる機会を作っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 市やグループホーム交流会主催の普通救命講習がある際は積極的に受講している。また、普通救命講習を職員会等で発表し、急変時等に適切な対応が出来るよう努めている。なお、事業所としてマニュアルを整備し、各部屋ごとに『急変時の対応について』の掲示もしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の避難訓練は基本的に全職員が参加するかたちで年に2回以上行い、運営推進会議でもテーマに取り上げ話し合っている。震災後、職員会議でも災害時の連絡体制を見直したり、地震が起こった際の不安点や対応方法について改めて確認作業を行っている。また、管理者は地域の自主防災会へも出席し、地域との協力体制を築いていけるよう努めている。 (外部評価) 11月・6月に夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議時に避難場所について話し合い、利用者の状況を踏まえた上で場所変更等をした。備蓄は、1週間分、食料や水、手袋等を用意している。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者と自分（自分の親）との立場を置き換えてみて、今の言動は適切であったのかという観点で常に考えるよう指導されており、できていない職員は管理者がその都度注意している。採用時はもとより、プライバシーや個人情報を守る事の重要性やそうした職業意識を高める取り組みを行っている。 (外部評価) 管理者は日常の中で「相手の気持ちになって接すること」の大切さを話している。現在は全員女性利用者で、男性職員が入浴や排泄介助する場合もあるが、信頼関係を作ってから支援にかかわっている。信頼関係ができると「～さんが入れてくれるならお風呂に入る」と言われるようだ。親しみゆえのことではあるが、利用者に対しての言葉かけが気になるような場面もある。	ケアの質向上に力を入れている事業所でもあり、今後さらに、職員の利用者への対応や言葉かけについて職員個々が自らを振り返ったり、点検して自らが気付くような取り組みをすすめてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食べ物や飲み物には出来るだけ選択肢を設けて選んでいただき、ご本人の希望に沿うようにしている。また、レクリエーションや作業は強制せず、無理の無い範囲で能力に合わせたものを選んでもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) "自分らしい生活"はホームの理念であり、その人らしい生き方、その人に合ったペースでの暮らしの支援に重点を置くよう、運営者を含めて職員一同心がけている。また、ゆとりを持った介護ができるよう、運営側共々考えており、ゆっくりと一人ひとりに向き合う時間を大切に、かつ、職員の都合を優先しないよう常に話し合っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人が希望する場合、美容院への予約や送迎支援を行ったり、馴染みの基礎化粧品を使っていたり、外出時の服装はご自身で選んで頂く等の支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 副食については主に外注であるが、土曜・日曜日は調理の日と決め、ご利用者の希望に添えるよう心がけている。家事に対して協力的なご利用者には、おしぼり等の支度を、下膳できる方にはお声がけしてお願いしている。	
			(外部評価) 字が書ける利用者がホワイトボードに昼食、夕食のメニューを書いてくれており、食事のことが気になる利用者が座るテーブルに置いている。トレーにランチョンマットを敷き滑り止めにしている。感染症のある利用者の食器は別色を用意しているが、その他の方には軽い同じ食器で統一している。箸は個別のものを使用している。職員は、利用者となりで同じものを食べながら、残さず食べられるように促していた。土・日曜日の調理の日には、個々の出来ることを行ってもらえるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量や水分量については、毎食チェックして記録に残し、必要量が取れているか一人ひとり気をつけている。また、嚥下困難な方や偏食の利用者には、形態や調理方法を工夫したり、特に水分摂取量に注意が必要な方には汁物を毎回付ける等して、その人が摂取しやすい形でお出ししている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 月に何回か歯科の往診があり、口腔内のチェック・指導をして頂いている。また、毎食後歯磨きや義歯洗浄を行い、夜間には定期的に義歯のポリドント消毒をしている。また、口臭の気になる方に関してはモンダミン等を使用しての口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に毎日個人の排泄状態を記載しており、職員全員が把握できるようになっており、毎日排泄トラブルのない支援を心がけている。また、日中はこまめにトイレ誘導を行い、退院後はおむつを使用して帰所されたご利用者も、状態を見ながらできるだけ元の状態に戻れるよう排泄自立に向けた支援をしている。 (外部評価) 足元が不安定な利用者には、夜間のみ使用できるように居室にポータブルトイレを置き支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の利用者には、その人の好みや体質等を考えながら牛乳等を飲んで頂いたり、適度に運動をして頂くことで、出来るだけ自然排便に向けた支援をしている。また、必要に応じて個人にあった漢方薬（緩下剤）服用等の支援をしている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご本人のお好きな時間に入浴して頂けるわけではないが、入浴時間等の希望を聴き、なるべくご本人の希望時に入浴が出来る様心がけている。また、身体状態を考慮したり、快適に入浴が出来ることを考え、座ったまま入浴できる特殊浴槽を利用して浴槽にて温まっていたりしている。 (外部評価) 入浴支援を断る利用者があり、現在、カレンダーに入浴した日にシールを貼って、利用者と確認しながら入浴を促して入浴につなげられるよう取り組んでいるケースがある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、倦怠表情の著しい方には居室で横臥して頂くなど、適時休みをとり、無理の無い生活を送れるように支援している。また、夜型の生活パターンで過ごされてきたご利用者は、翌日に響かない程度居間に残って過ごされてから自室に戻り就寝されている。就眠前や夜間には刺激の少ない飲み物を準備して、安眠につなげている。また、睡眠状態をチェックし、散歩やレクに重点を置くなど、日中の過ごし方なども考えた支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬に関する事は、日々の申し送り項目の中に入れ、個人の服薬一覧表でも服薬の変更やあり方等について確認している。また、服薬管理の徹底や処方薬変更後には特に利用者の症状、変化に早期に気付く為の取り組みを行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションや創作活動、言葉の体操、ことわざや計算等、その方の得手不得手に合わせて声かけし、支援している。また、写真を飾る、唄、生け花、庭で草木を愛でる等、個人々の関心事や趣味の中で楽しめる支援を行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お天気の良い日には毎日散歩に出ている。また、いつも行けるというわけではないが、ご本人の希望等もお聴きし、買い物、ドライブ、季節の花見、文化祭・展示会等への外出支援をしている。また、定期的にご家族と一緒に外出されるご利用者は、その機会が途切れぬようご家族との連携を心がけている。 (外部評価) 散歩に行きたい方、行くのが嫌じゃない方については近くの散歩に出られるよう支援している。暑い夏は、8時くらいから、その他は10時くらいから散歩時間になっている。季節に応じて花を見に出かける等している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人が希望される場合は、ご家族と相談し、外出時やお好きな物を買えるよう、自由に使えるお金をホームでお預かりしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要性や希望に応じ、親族や知人との電話連絡等の支援を行っている。ホームに知人から電話がかかってきて、嬉しそうに話されているご利用者もおいで。また、手紙や年賀状などが出せるような支援もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間から、吐き出し窓からデッキ・スロープを通じて庭への出入りが自由に出来、玄関からは植物を鑑賞しながら寛げる場所をつくる等、四季の花を楽しむ環境を大切にしている。玄関やロビーには、活け花や観葉植物を飾っており、心地よい生活環境には特に力を注いでいる。また、音などの刺激を防止するなど必要に応じて適時、工夫を凝らしながら支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関周りや庭、室内の各所に緑や花を配している。又、木の温かみのある家具等を配置し、家庭的で開放感のある空間を作っている。又、照明も明るすぎないように配慮し、窓からの自然の明るさを採り入れている。玄関を入ったスペースには、職員の家族が作った作品や以前利用していた方の写真を飾っていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ロビーに移り、花を愛でたり、一人でゆっくりと寛いだり、居間では皆と楽しくおしゃべりする等、思い思いにロビーと居間とで空間を使い分け過ごせるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時、馴染みの物や道具を持ってきてくださる様ご家族にもお願いしており、ベッドや箆笥や鏡台、仏壇を持って来られている方、亡夫の写真や賞状、沢山の人形等を飾られている方もおられる。また、誕生日カード等を目に付きやすいところに飾る等して、心地よい空間づくりを職員も工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>畳の部屋が1部屋あるが、その他はフローリングにしている。入口にのれんを掛け、目印や雰囲気作りをしている。自宅から鏡台を持って来ている方は、鏡を見ながら自分で髪を梳かしている。窓から木が風に揺れている様子が見える。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>下肢に障害のある方はなるべく洗面所やトイレの近くに座ってもらったり、椅子や小テーブルの置き場所を決め、整理整頓にも気をつけている。また、安全性と自立度を考え、必要に応じワイヤレスや滑り止めマットを配置したりしている。</p>	